

I S O / I E C WG21 (IT Asset Management/IT資産管理)
WG 2 1 国際会議出席報告書

2024年7月26日

参加者氏名：島田篤、高橋快昇

1. 開催場所：ベルリン

2. 開催期間：2024.5.28-29

3. 参加国数／出席者数： 8カ国/19名、3リエゾン

会場参加者：コンビナー、幹事、独(1)、仏(1)、オランダ(1)、日本(高橋)、SAMAC(島田)

リモート参加者：インド(1)、カナダ(2)、フィンランド(1)、US(2)、その他(3)、ITAMForum(3)、ITAM.ORG(1)

4. 審議事項：

4.1 審議概要

4.1.1 ISO/IEC 19770-1Ed.4 (要求事項)

投票開始前の WG21 内のレビューコメント 28 個の対応を検討した。日本からのコメントは全て採用された。検討の中でガイダンスや他の規格及び OTAM (オペレーショナルテクノロジーアセットマネジメント) の定義とも同期の重要性が指摘された。また、WG21 の OWG は FinOps Foundation と合同の Joint Special Interest Group で検討してきたが、今回、FinOps の SIG (Special Interest Groups) と統合されることになった。
参考：<https://www.finops.org/special-interest-groups/>

4.1.2 I ISO/IEC 19770-5 : 202x Ed.3 (概要及び用語)

ISO/IEC 19770-5 : 202x Ed.3 (概要及び用語) : CD ドキュメントに対するコメント調整が完了し、DIS 投票に進むことが決定した。

4.1.3 ISO/IEC 19770-9 : 202x Ed.1 技術仕様 (ITAM インベントリスキーマ)

プロジェクトが正式に中止された。

4.1.4 ISO/IEC 19770-10 : 202x Ed.1 技術仕様 (ITAM 導入ガイダンス)

ISO/IEC 19770-10 の概要の説明、コメント処理、Ed.2 の考え方、プロジェクトの現状説明が行われた。

a. -10 の概要の説明

全体の目次構成とそこでの考え方 (19770 規格群との一貫性、ITAM の一定の水準に達した読者、ITAM の実施と改善計画のガイド、19770-1 : 2017 認証のロードマップ、組織に応じた最適な ITAM の開発、150 ページ以上のドキュメントになったが多すぎることはない、コストの正当性、編集の一貫性) が再度説明された。

b. コメント処理

5 つのコメントが報告され、1 件以外は全て Accept された。拒否された 1 件は、「ITAM を実践プロセスに

沿った（例えば架空の組織）フレームワークの付属書があった方が良い」というものであったが、趣旨が良くわからないということで 2 Ed. に反映するようにコメント提供者（中国）と議論することになった。

c. Ed.2 の考え方

コメント処理でも議論されたがー 1 と同期をとることに通じることだが Ed.2 の考え方について議論した。Ed.1 が出版された後、Ed.2 の検討のため利用することを想定している。17 個のテーマが議論され、タグ関連の 2 つは（検討のためのボランティアが決まっていないこと、インベントリスキーマが中止されたこと）削除され、以下の 15 個の変更アイデアが調整された。

- ① Ed.1 で拒否された中国のコメントの趣旨を明確にし、反映させる
- ② ITAM の基本的な説明の充実
- ③ ISO 19770-1 Ed.4 に合わせた更新。
- ④ ISO 19770-5 Ed.3 の用語と定義のセクションの更新。
- ⑤ ISO 19770-13 との一貫性の確保
- ⑥ ITAM ソリューションベンダーとの相互運用性を促進するための共通のアプローチとデータモデルを定義
- ⑦ ITAM データ収集者としての ITAM ソリューションベンダー
- ⑧ 古い IT コンポーネント(PC、プロッター、スキャナーなど)の管理
- ⑨ OT 資産管理に特化した新しいセクション
- ⑩ 業界のコンセンサスに基づく ITAM の実践者が使用する ITAM ソリューションの評価基準
- ⑪ ITAM 管理対象の実装を優先したより詳細なリスト
- ⑫ サイバーセキュリティに関する ISO ワークグループ(ISO 2700x)の ITAM に関する要件
- ⑬ 資産ポートフォリオの最適化と製品ライフサイクル自体の管理(承認、最適化、寿命の終了など)
- ⑭ 市場ニーズの開拓とセッションまたは付属書の開発
- ⑮ ITAM Forum、SAMAC からの市場ニーズの収集

d. プロジェクトの現状説明

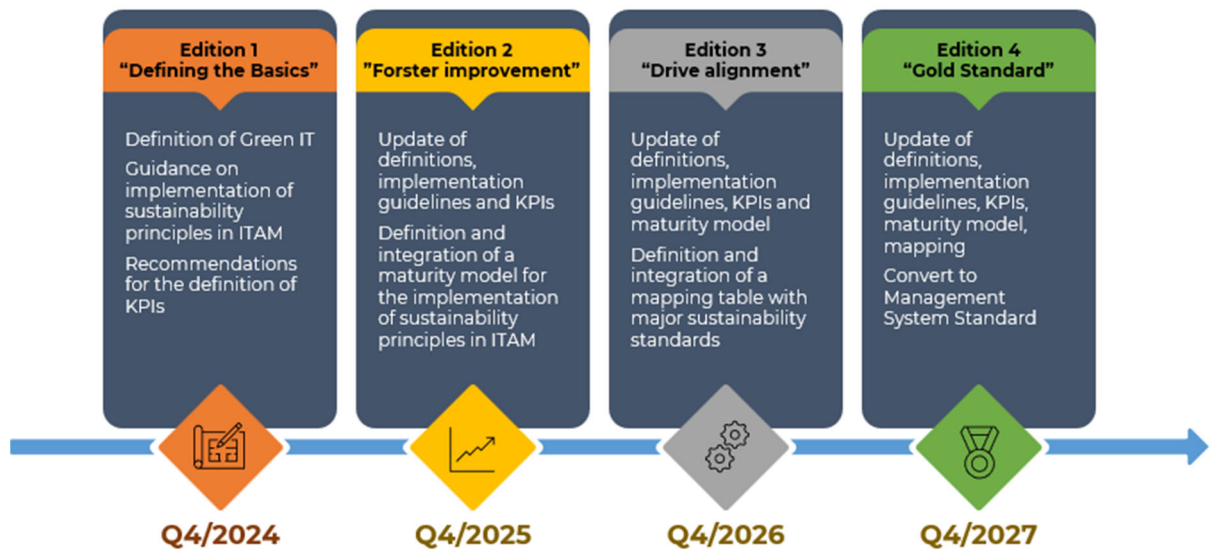
Ed.1 は、2024 年第 4 四半期に出版予定。その後、Ed.2 の変更アイデアをもとに Ed.2 の変更が開始される。

4.1.5 ISO/IEC 19770-13 : 202x Ed.1（持続可能な IT 資産管理）

2023 年中間会議で報告された最初の草案に「ITAM フォーラム SIG」、「FinOps Foundation SIG GreenOps」との整合性を経て作成された草案に対する WG21 内のコメント処理が行われた。日本のコメントは全て採用されている。次のステップとして DIS 投票に進むことが確認された。2024 年第 4 四半期に発行予定。内容は、以下の通り。

- ・ 箇条 3 : 用語と定義
- ・ 箇条 4 : 持続可能(グリーン)IT の定義
- ・ 箇条 5 : 持続可能な ITAM の実施に関する原則
- ・ 箇条 6 : 持続可能な ITAM の実践

以降の予定は以下の通り、



4.2 ITAM Forum の Liazon 報告

- ITAM Forum は 5 月にもともと Martin が運営していた ITAM のオンライントレーニングプラットフォーム Lisa と ITAM 関連で有名なニュースサイト ITAM Review を吸収した。



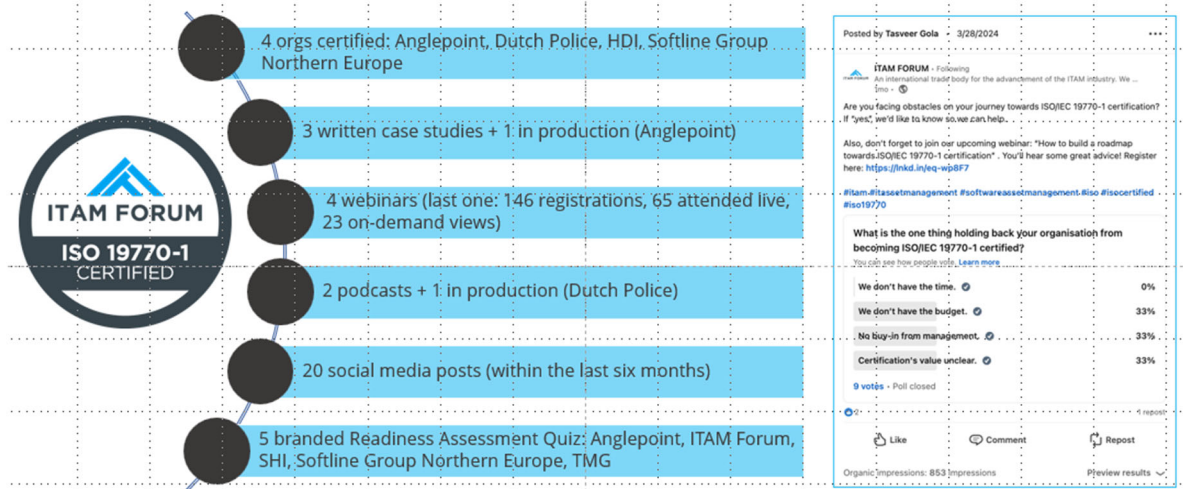
- グループとしてのウェビナーも以下のように充実してきている。
 - ✧ May 2024: Audit Defence (Lisa)
 - ✧ May 2024: SAM Tools Market Changes (ITAM Review)
 - ✧ April 2024: Certification Scheme (ITAM Forum)
 - ✧ April 2024: Engineering Software Licensing (Lisa)
 - ✧ April 2024: Online Tools Day (ITAM Review)
 - ✧ April 2024: Cloud Cost Management Roadmap (ITAM Review)
 - ✧ March 2024: HAM (ITAM Forum)
 - ✧ Jan. 2024: ROI & Reporting (ITAM Forum)
 - ✧ Dec. 2023: AI + ITAM (ITAM Forum)

世界中に支部があり最もあたらしい支部はフランス。

- 19770-1 の認証についても積極的に推進している。現在、4 つの組織が認定されており、3 つはケーススタディとして報告されている。
- 19770-1 認証については 4 回のウェビナーが実施されており、前回は 146 人が登録されている。ソーシャル

メディアへの投稿も 20 回行っており、アンケートもとっている。そのなかで、「予算がない、経営陣の賛同が得られない、価値が不明瞭といった点が足かせになっている」との回答が多いとのことである。組織認定が中々進まないことの議論の中で、「認証取得する組織が少ないのは、ITAM を行う成熟した組織が少ないためである。」「認証を取得することは成熟度の頂点だ。」という意見もあった。

Certification Scheme



4.3 次回会議

- Monthly Call : 毎月の最終週水曜日に実施
- Interim Meeting : 20-21 Nov 2024, Toronto, Canada
- Plenary Meeting : 8-13 June 2025 Bangkok, Thailand

以上